

自分流「枕草子」を書こう

春には桜を待ち、秋には紅葉をめるといった時代に、清少納言は独自の感受性で四季それぞれの好きな時間帯や素材を挙げ、その趣を書きつづりました。「枕草子」をまねて、季節感を表す文章を書いてみよう。

春は桜。桃色の花がきれいに咲き、春の訪れを知らせてくれる。

夏は海。風が吹き、潮のにおいがすると、暑さも少しずつ和らいでいく。

秋は落ち葉。歩いたびに落ち葉を踏む音が響いて暑かった季節がようやく終わる。

冬は雪。積もった雪を手にとるとだんだんと冷たくなっていく感覚がおもしろい。

(1組 奥山楓美梨)

春はタンポポ。春になり暖かくなると、公園の草のところからタンポポがたくさん生えてくる。

夏は虫。家に虫が入ってくると、絶望感と「もう夏なんだな」と感じる。

秋はトンボ。秋になると、トンボがめっちゃ飛ぶから、自転車に乗っているときに、たまに顔にトンボが当たる。

冬はかまくら。冬になるといつもかまくらを作るけど、いつも崩れる。

(1組 矢口 悠馬)

春は恋。ようよう赤くなりゆく頬ぎは、少し甘くて、すっぱみがあった味がする。

夏は花火。君の浴衣はさらなり。闇もなほ、花火の多く飛びちがいたる。

秋は失恋。夕日のさして山の端いと近うなりたるに、目から雫が三つ四つ、二つ三つなど、こぼれ落ちては、あわれなり。

冬はぼっち。相手がいないのは言ふべきにもあらず。

(1組 田中 倅仁)

自分流「枕草子」を書こう

春には桜を待ち、秋には紅葉をめぐるといった時代に、清少納言は独自の感受性で四季それぞれの好きな時間帯や素材を挙げ、その趣を書きつづりました。「枕草子」をまねて、季節感を表す文章を書いてみよう。

春は昼過ぎ。桃色の花が降りたる頃は、日光とマッチし、とてもきれいである。

夏は夕立。夕立の頃は雨や雷が降りやすい。雨の音は自分を忘れられる。雨が止む頃には夕日が虹を写し出すのは、いとをかし。

秋は黄昏。葉か色付くころに見るこの時間の景色はいふべきにあらず。

冬は早朝。雪が日光を反射してキラキラ光る景色はとても声なくなるほど美しい。

(2組 白鳥 涼和)

春は桜木。外を歩けば木から桜こぼれ落ちて、地面は桃色で染まっている。

夏は海。暑さに負けない冷たい水につかって思い出づくり。

秋は落ち葉。公園に行き寝っ転がればオレンジ色に染まっている落ち葉がクッションになる。

冬は雪。窓見れば真白で美しい景色が広がり心が落ち着く。

(2組 杉谷 珠吏)

春は花の咲き誇る時期。雪が解け始め、季節が暖かくなり道こふと花が咲く。自分もこの花と同じように新しい道をスタートかな。

夏は海。凜々しい海の波の音と共にギラギラしている太陽二つが混じり、浅い夏の彩りを感じるかな。

秋は紅葉。木々が紅、黄色に染まり、それを一面にばらまいてくれる。それと共に虫の音が聞こえてくる。

冬は雪。白くて寒くて家でストーブの近くで猫背になりながらゴロゴロ過ごすのかな。雪はねはめんどくさいな。

(2組 奥山 凜)

自分流「枕草子」を書こう

春には桜を待ち、秋には紅葉をめぐるといった時代に、清少納言は独自の感受性で四季それぞれの好きな時間帯や素材を挙げ、その趣を書きつづりました。「枕草子」をまねて、季節感を表す文章を書いてみよう。

春は始まり。学び舎での友との話などがはずんで、楽しみが増える。

夏は夜。友と集まり、祭を楽しみ、終わりに美しい花火を眺める。

秋は夕日。ふと空を見ると、赤紫になり一日の終わりを感ずる。

冬の別れ。一年の終わりと友との別れ。そして新しい道への一歩となる。

(3組 稲森 一起)

春は入学式。緊張しながら呼ばれる名前。大きな返事で緊張ほぐれる。

夏は体育大会。練習必死に頑張っ、迎えた本番で、緊張する足振り切っ、1500メートル走り切っ。

秋は学校祭。喉枯れるまで合唱練習。本番に、みんなに努力を見せつける。

冬は卒業式。三年生との思い出が、次々頭に思い浮かぶ。三年生の目から大粒の涙が頬をしたたる。

(3組 宇佐見魁士)

春は新学期。ハラハラして見た新しいクラス名簿、新しい友達できるといいな。

夏は猛暑日の体育。太陽の下で走った百メートル走。記録が伸びずに困った。

秋は合唱祭。みんなで心を一つに歌った。緊張して手がふるえたピアノ演奏。

冬はスキー学習。寒い中みんなで滑った比布の山。一回も転ばずに滑れてうれしかった。

(3組 高田 琴音)

自分流「枕草子」を書こう

春には桜を待ち、秋には紅葉をめぐるといった時代に、清少納言は独自の感受性で四季それぞれの好きな時間帯や素材を挙げ、その趣を書きつづりました。「枕草子」をまねて、季節感を表す文章を書いてみよう。

春は桜もち。家から帰ってきたら、たまごがある。しかし兄がたくさん食べるのであまり食べられない。

夏はアイス。家にアイスがあると思って冷凍庫を開いたら、ないのが悲しい。

秋はだんご。よく十五夜るとき買ってくる。自分はみたらし団子が好きだ。

冬は鍋。たまご鍋もいいが、週末はほしいキムチ鍋。せめて味だけは変えてほしい。

(4組 向井 陽生)

春は成長。新しいことが始まる季節。一つまた一つと、自分が成長していく喜び。

夏は虫。暑さと虫、約4ヶ月間の地獄の日々。部屋に虫が入らないことを祈るのみ。

秋はヒマ。暑くも寒くもなく、ただゴロゴロするだけの、最高の季節。

冬は朝。寒さで布団から出られない。しかし、永遠に鳴り続ける呼び出しアラームで、強制的に目覚めさせられる辛い朝。

(4組 出川 椿)

春は雪解け。理想を思い描いたきれいな景色ではなく、泥だけの景色。それもまたおもしろい。

夏は夜。暑く、眠れない。熱帯夜は特に辛い。

秋は夕暮れ。風が吹き、肌寒く、冬が近づいてきたと憂うつな気持ちになる。

冬は鍋。寒いときに食べる鍋は格別。身も心も温まる最高の瞬間。

(4組 横山 湊人)